

「花の座」公演／上田邦義 作・演出／足立禮子・鈴木啓吾 作補

能・リア王 再々々演

The 4th Presentation of **NOH: KING LEAR** in Japanese

Performed by the Kanze School

Arranged & Directed by Kuniyoshi Munakata UEDA, based on W^m Shakespeare's *King Lear*,
At Kioi Small Hall, Yotsuya, Tokyo

シテをリア王からコーディーリア姫に移し
高貴な人間性と女性の神秘性をテーマにした

日時 2010年 12月23日(木・祝)
13:30開場 14:00開演

場所 紀尾井ホール 小ホール(東京・四ツ谷)
(JR・地下鉄「四ツ谷駅」より徒歩6分)

足立 禮子 (親世流) シテ (コーディーリア)

シェイクスピアの創造した最も美しい霊的な女性コーディーリアを、
現役最長老の女流能楽師、足立禮子が演ずる。

「万全の安心感」「能の位」「豊かな時間がここにある」(馬場あき子氏評)

「いくつになっても新しい試みをしていくことは、
能楽師の使命であり、喜びであると思います」 足立 禮子
「わが唇に霊気宿り、この接吻が、父上の無惨なる傷を癒しませ」
コーディーリア

遠藤 喜久 (親世流) ツレ (リア王)

「この世の正義は権力者や金持ちが、貧者弱者を抑圧する道具に
過ぎぬか。目の見えし時はつまずきて、見えぬ今は見えたりや」
リア王

番組 解説 「能は悟りの芸術」(日・英) 上田邦義
狂言 『昆布売』大蔵流 山本則俊・山本則重
能 『リア王』足立禮子(シテ:コーディーリア)
遠藤喜久(ツレ:リア王)

新井麻衣子(ツレ:侍女) 遠藤 博義(間:隊長・道化)
鈴木 啓吾(地頭) 奥川 恒治(主後見)
寺井久八郎(笛) 古賀 裕己(小鼓)
大倉正之助(大鼓) 徳田 宗久(太鼓)
小島 英明(地謡) 古川 充(地謡)
本田 博保(地謡) 杉澤 陽子(後見)

舞台デザイン: 横井紅炎

入場料 指定席 6,000円
自由席 5,000円
(当日 5,500円)

問合せ (足立) TEL. 03-3421-1525
(遠藤) E-mail: endo@company.email.ne.jp
(新井) E-mail: riaou2010@yahoo.co.jp
(上田) TEL. 0557-82-1411
E-mail: ueda@gssc.nihon-u.ac.jp

撮影: 早坂 明

『能・リア王』開演まえに (解説：上田邦義)

リア王は80歳になり、ブリテン王国を三人の娘(息子がいない)に分与するに、言葉によって愛情を確認しようとした。(これが間違いないか)上の二人は結婚していたが、「父のみを愛する」と公言し、それぞれ領土の三分の一をもらう。一方、独身の末娘コーディーリアは、「何にも」(Nothing, my lord.)と答え、「結婚しても娘としての義務は果たします」と改めて答えるが、勘当されてしまう。これを見ていたフランス王が彼女に求婚し、フランス王妃にする。やがて(たちまち)上の娘たちに裏切られたリアは、激昂し、嵐の夜、城外に飛び出してしまふ。従者もなく半狂乱で荒野をさまよう父を、コーディーリアが救助に駆けつける。『能・リア王』はここから始まる。台本で「言葉」を確認しながらご覧ください。

『能・リア王』再々演(2009.4.29)感想

- 初めての能鑑賞。台本を見ていたので分かりやすく、楽しく鑑賞できた。(大嶋宏美)
- コーディーリアの最初のセリフ「いまだ大地に潜み、人に知られぬ葉草たちよ。私の涙を受けて芽を出し…」に、しびれるほど感動した。なんと神秘的な女性なんだらう。
- 100年近く前、シェイクスピア作品を演出するには能が一番良いと言った漱石の先見性、それを実現された上田先生の情熱とご努力。本当に素晴らしい機会を賜りました。(瀧川弘行)
- 新しいジャンルへの挑戦と、古典の融合。この世の不条理を、真と愛で、魂の世界へまで開きかけ、人生とは、天命とは、と語りかけてくれた。魂から喜びを感じました。能は44年間で4・5回目。
- リア王とコーディーリアの厳かな舞に思わず涙ぐんでしまいました。母を見ると涙を流しておりました。一昨年亡くなった父を思い出したのかも。母共々とても良い経験と感動をいただきました。(経畑香代)
- 三回目の鑑賞、さすがに感動できるかどうか心許なかった。ところが、シテが現れた瞬間、私の心は緊張と感動に満たされたのだ。また終わりの方で、リアが、「コーディーリア、お前の声はいつも静かに、柔らかに優しかった。それは父の美徳。ああもうこの世にはいない」と語りかけ、「コーディーリア」の箇所ではひときわ高い音程で語った。その途端、私は感動のあまり、こらえきれなくなつて嗚咽に襲われた。しかしその後の、御堂になった二人の相舞に至つて、私の心はすっきり晴れ晴れし、喜しくなつて、誠に後味のよいものとなった。今後、年に一度の恒例にして、足立・遠藤両先生のお命の続かれる限り演じてもらいたい。(遠藤 光)
- 観終つて「シェイクスピアが創造した最も美しい女性」の意味がわかった。
- 能は洗練された悲劇的美意識を舞台上に生み出すのに最適だ。上田作品は能とシェイクスピア劇のそれぞれの伝統に忠実である。主役の二人の掛け合いの中で、シェイクスピアの原文がもつ時の生命が躍動するのを見た。だがこの作品のポイントは、作者が付け加えた「アイ狂言」の歌に示されていることだ。「思えばこの世は三つの世界、心と言業と行動と。三つとも大事のこの世の世界。三つの世界が一つにならねば、リア王殿は救われぬ」。この作品は真の(深い意味で)異文化交流に成功している。(これは作者のホリステイク(全人の)な人間観によるものと見よう。
- 人間くさい部分をすべてカットして、愛と救済というテーマに焦点を絞った。かつてジョン・F・ダンバーは、「コーディーリアを理解することは、劇全体を理解することだ」と述べたが、この寡黙な娘が劇中に占める位置はそれほど大きいのである。この神性を備えた象徴的存在であるコーディーリアをシテに据えることで、シェイクスピアと能を合体させることに成功している。観客は、能の持つ高い精神性と劇愛という美意識を感受しながら、シェイクスピアの世界に溶け込むことができたと感じた。(川地美子)
- 能の世界観や美意識に強い共感を覚えています。これまでは、能(舞台)の影響を受けた作品を見てきましたが、今回は本物の『能・リア王』を見ることができ、非常に満足しました。(浜名恵美)
- リア王の悪むすめたちを資本主義に例えられたのは、思わずにやつとしてしまいました。最後は、人の倫理に立ち戻るんですね。With great admiration, once again thank you.です。狂

言問語の、「この世は二つ/見える世界と見えない世界」「この世は二つ/言葉の世界と心の世界」「この世は二つ/心の人と言業の人よ」「思えばこの世は三つの世界/心と言業と行動と/三つとも大事のこの世かな」「三つとも大事なるこの世界/三つの世界が一つにならねばリア王殿は救われぬ」—これには心を打たれました。(原不二子)

従来の英文学的な知見では得られない新しい作品の解釈を提示している。ここに非英語圏で創作されるシェイクスピアの素晴らしさと意義がある。カギとなるのは、上演の際の身体表現であり演技空間の多層的な意味である。『能リア王』におけるコーディーリアの扱いは考えると、この作品は国際的な評価を受けるに値する産一流の『リア王』であると確信する。これは、後世に残すべき作品ではないが、足立先生作品に対する思いもあるので、再演、再々演の中で、ますます作品として洗練されてきている気がする。(南 隆太)

女性音楽師のさきがけのお二人、足立先生は今年84歳。八歳から稽古をはじめ、今年で76年目の大ヴェテラン。コーディーリアを演じて、そのすくもろけるようなお声はますます磨きがかかり、涙する人も多く、足立コーディーリアの精神性の高い女性の魅力と遠藤リア王の迫力と悲哀。期待を大きく上回る演能でした。(宮西ナオ子)

上田作では、焦点をシェイクスピアの『リア王』の最後の場に置いたのは、何より正しいと私は見た。シェイクスピアは敬虔なキリスト教徒であったのだろうか。人間としてそうではなかったとは言えないだろう。彼の作品が、豊かに聖書からその生命を汲み取ることが正しいにしても、彼の作品は全体としていかなる意味においてもキリスト教教育課程にはくっついていないのである。このことは、上田作品の終わりを見たときに観客がとくに注意しなければならぬことであると、私は判断した。(山形和美)

The adaptation was unchanged from last year, and still achieved the refined aesthetic effect at which this style of cultural fusion excels. The Fool's song clearly expresses the point of this production: "There are three worlds; / The world of words, the world of behaviours, / And the world of mind and heart; / The three are all important, / But, until they accord with one another, / Lear will not be saved." I suppose it is this holistic interpretation that made this adaptation a truly transcultural one. (Daniel Gallimore)

Ueda's *Noh: King Lear* is absolutely unique. He let a Kyogen actor tell the story of Lear's life. His play begins with the scene of a touching reunion between Cordelia and Lear. According to John F. Danby, to understand Cordelia is to understand the whole play. Ueda succeeded in developing Shakespearean theme of love and redemption in his Noh play. When Cordelia's ghost invited Lear to the next world, the spectators understood Zeami's concept of "yugen," quiet, mysterious and profound beauty. In addition, they purified themselves through the last scene showing the promise of celestial bliss. Ueda appears to have given an affirmative answer to his own question, "Can I perform Shakespeare's drama in the style of Noh?" This play is not Shakespeare's work but Ueda's "creation." I believe his experimental attempt is a valuable contribution to the cultural exchange between Japan and England. (KAWACHI Yoshiko)

Ueda has chosen his main motif from around the end of Shakespeare's work, which seems to me more than right way in making up the Noh play out of Shakespeare's work. This way of saying naturally leads my eye to the *Book of Job* which provides the consummation of Shakespeare's *King Lear*. That is to say, starting from the *Book of Job*, going through Shakespeare's *King Lear*, we arrive at Ueda's work. When looking into minutely this three-fold structure, we can judge Ueda's superb dramatic ability, and this work of Ueda's Noh play exposes its dramatic power, which is so moving. (YAMAGATA Kazumi)

足立禮子 (Reiko ADACHI) 略歴



親世流シテ方音楽師専攻。1925年小樽市生まれ。48年上京し、女流音楽師の草分け津村紀三子師に入門。その後、親世喜之家に所属。64年の道成寺披き以来三度の道成寺公演のほか、琴塚小町・鶴崎小町・恋重荷・鶯など披く。津村紀三子師作「かくや影」、上田邦義作・新作能『リア王』のコーディーリアなどを公演。82年、女流会「華の座」設立。2004年、女性として初めて重要無形文化財認定を受ける。緑泉会同人、藤能会主宰、(社)日本能楽会、(社)能楽協会会員。写真集に『華』(森田裕史郎/ピンチ・ネット・プレス)、著書に『Nと云わない生き方』(三五館)。

遠藤喜久 (Yoshihisa ENDO) 略歴



親世流シテ方。1962年生まれ。現三世親世普之及び父遠藤六郎に師事。8歳より国内外の千以上の舞台に出演。2007年、新作能『リア王』のリア王役を演じて新境地を拓く。能の会「遠藤喜久の会」主宰。(社)能楽協会会員。(社)親世九草会会員。日本大学芸術学部卒業。ホームページ: <http://www.ne.jp/asahi/endsow/page/>

新井麻衣子 (Maiko ARAD) 略歴

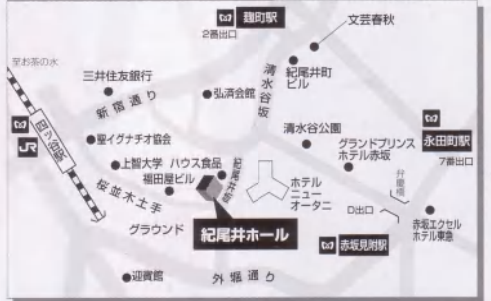


親世流シテ方音楽師専攻。1981年生まれ。2004年お茶の水女子大学生活科学部卒業。在学中に足立禮子師に出会い、入門。2006年東京芸術大学音楽学部邦楽科音楽専攻(別科)卒業後、九草会・緑泉会にて研鑽。(社)能楽協会会員。

上田邦義 (Kuniyoshi UEDA) 略歴

静岡大学名誉教授。英語能「ハムレット」「オセロー」「マクベス」「リア王」などを創作・主演。日本語新作能「オセロー」「ハムレット」「クレオパトラ」「トマス・ベケット」「ふたりノテラ」など作・演出。著書に『リア王』先生、ありがとう! (三五館)ほか。国際融合文化学会会長。ホームページ: <http://atlantic.gssc.nihon-u.ac.jp/ISHCC/>

紀尾井ホール アクセスマップ



東京都千代田区紀尾井町6-5 TEL.03-5274-4500
(JR・地下鉄四谷駅より徒歩6分) JR四谷駅(麹町口)からは、改札右のエスカレーター上がり、右手の広い「新宿通り」を渡り、左手に教会・上智大学、右手に土手を進み、左側「福田家の先」左側。

足立禮子さんの本 『NOと言わない生き方』
四六版上製/272頁/定価1,575円(税込)
「能」にかけた女性初の無形文化財、究極の自伝!

上田邦義さんの本 最新刊 『ブライズ先生、ありがとう!』
四六版並製/224頁/定価1,470円(税込)
戦後日本の再出発を陰で支えた偉人に、光を当てる!

ご注文は、書店へお申し込みください。お問い合わせ先 TEL.03-3226-0035 **三五館**

協賛・協力：華の座、英語能シェイクスピア研究会、(株)グランディール、(株)ニシガイ、小林能装束、三吾館、国際融合文化学会

URL : <http://atlantic.gssc.nihon-u.ac.jp/ISHCC/>